
編集後記

機関誌第4号を編集するにあたって、私が心がけたことは海外からの識者の論文を掲載したいという希望であった。

幸い、英国の医療経済研究の第一人者である、アラン・メイナード教授（Professor Alan Maynard）から「The Development of Health Economics at the University of York」の寄稿をいただき、巻頭をかざることができた。なお、メイナード教授との交渉にあたっていただいた池上直己教授のご好意とご尽力に対し、心より感謝申し上げます。西村周三教授からは「長期積立型医療保険制度の可能性について」の原稿をいただいた。人口の高齢化の進行と国民医療費の長期的増大に耐えうる医療保険制度の確立を提唱された意欲的な論文である。医療保険制度改革をすすめている今日、まことにタイムリーな論文のように思われる。両先生の機関誌に寄せられたご好意とご協力に厚く御礼申し上げたい。

応募論文多数の中から、今回は投稿論文として3本採用させていただいた。3作品はそれぞれ新鮮な問題意識とユニークな分析手法を用いた優れもので、読みごたえのある論文だった。いずれも現在進められている医療保険制度改革論議に役立つ貴重な資料となりうるものとする。なお、当研究機構内部からの出稿は「巻頭言」に副会長の片岡一郎教授に御願ひした。研究ノートに関してはいくつかの候補作品を検討したが、今回は編集委員の判断で見送ることにした。次号以降に発表できる機会をもてるよう工夫と努力を続けてまいりたい。

これからも引き続き、機関誌の刊行に各方面のご協力、ご支援を心よりお願いする次第である。なお、今回一部論文の大幅な手直しのため、刊行が予定より大幅に遅れてしまったことを深くお詫び申し上げます。

(編集委員長 上條俊昭)
